

甲南大学動物実験委員会

甲南大学では、「動物の愛護及び管理に関する法律の一部を改正する法律」の施行及び「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本方針」等を踏まえ、科学的観点と動物愛護の観点から、動物実験の適正な実施及び実験動物の適正な飼育・保管を行っております。

<学内規定・関連規則等>

2007年4月1日から「甲南大学動物実験取扱規程」を制定しました。

2015年度

<動物実験の実施状況>

・申請課題数：10件

「高周波が皮膚に及ぼす影響に関する研究」

「ホヤ組織に対するモノクローナル抗体の作製」

「ホヤ卵内局在タンパク質に関する研究」

「脳神経系・筋肉の形成と機能発現に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「生分解性インジェクタブルポリマーを用いた細胞移植技術の開発に関する研究」

「クルクミンナノ組織体の抗癌活性評価に関する研究」

「アリ科女王の長期間にわたる大量の精子貯蔵メカニズムの解明」

「オルガネラ形成と機能に関わる遺伝子およびタンパク質の解析」

「分裂酵母プロテアソームと相互作用する因子の解析」

「物理的環境に対する応答シグナルとがんの病態制御メカニズム」

<実験動物の飼養保管の状況>

・使用（飼養）頭数： マウス： 56 (51)

<施設等の維持管理の状況>

・飼養施設： 1箇所（F-1号館305動物実験室2）

・実験室： 3箇所（F-1号館312、313、314実験室）

<動物実験等に関する安全管理の状況>

・病原体、放射性物質等を用いた動物実験は実施していません。

・今年度、動物の逸走等の事故は報告されていません。

<教育訓練の実施状況>

- ・実施日時：2015年3月31日及び4月10日
- ・出席者：21名（実験責任者となる可能性のある教員および、今年度動物実験に関わる学生全員が参加）
- ・甲南大学動物実験取扱規程、動物実験を適正に行うために必要な諸注意、動物実験の申請および実験計画書、標準操作手順（SOP）等について説明と質疑応答を行いました。今年度の申請課題は、理工学部においては、実質的に動物実験を行う者は教員4名であり、それも昨年度から継続の抗体作製の外部委託であったため、上記説明の後、質疑ならびに確認を行い修了しました。FIRSTでは、新たな実験計画を申請した研究室の学生も交え、基本的な法律に関して、3Rに関して、動物の苦痛分類に関して、など詳細に説明を行うとともに、実験にあたっての注意喚起をおこなった。さらに、両会場で2012年「動物の愛護および管理に関する法律」の改正にあたって、今後大学に求められる点の説明を行いました。甲南大学では、ほとんどが対応済みであったが、各協会等でも推進を訴えている「自己点検および外部評価」と「情報公開」が強く求められていることを説明し、2015年度に自己点検を実施し、2016年度には公私動協による外部評価プログラムを受けるべく準備を進めており、データの提供等協力をお願いした。